

## 19日 土曜

### ガラテヤ

1:11 兄弟たち、私はあなたがたに明らかにしておきたいのです。私が宣べ伝えた福音は、人間によるものではありません。

1:12 私はそれを人間から受けたのではなく、また教えられたのでもありません。ただイエス・キリストの啓示によって受けたのです。

1:13 ユダヤ教のうちにあった、かつての私の生き方を、あなたがたはすでに聞いています。私は激しく神の教会を迫害し、それを滅ぼそうとしました。

1:14 また私は、自分の同胞で同じ世代の多くの人に比べ、はるかにユダヤ教に進んでおり、先祖の伝承に人一倍熱心でした。

1:15 しかし、母の胎にあるときから私を選び出し、恵みをもって召してくださった神が、

1:16 異邦人の間に御子の福音を伝えるため、御子を私のうちに啓示することを良しとされたとき、私は血肉に相談することをせず、

1:17 私より先に使徒となった人たちに会うためにエルサレムに上ることもせず、すぐにアラビアに出て行き、再びダマスコに戻りました。

1:18 それから三年後に、私はケファを訪ねてエルサレムに上り、彼のもとに十五日間滞在しました。

1:19 しかし、主の兄弟ヤコブは別として、ほかの使徒たちにはだれにも会いませんでした。

1:20 神の御前で言いますが、私があなたがたに書いていることに偽りはありません。

1:21 それから、私はシリアおよびキリキアの地方に行きました。

1:22 それで私は、キリストにあるユダヤの諸教会には顔を知られることはありませんでし



た。

1:23 ただ、人々は、「以前私たちを迫害した者が、そのとき滅ぼそうとした信仰を今は宣べ伝えている」と聞いて、

1:24 私のことで神をあがめていました。

パウロは主が誉め讃えられるためなら、自分の恥を喜んでさらけ出しました。彼は教会を迫害したのですが、それを隠そうとはしなかったのです。証の後に証し者がほめられたり、同情を受ける光景を見ることがありますが、それは主が中心にある共同体とは言い難いのです。

またパウロは「エルサレムにも上らず、アラビアに出て行き、またダマスコに戻りました。それから三年後に、私はケパをたずね…」と書いています。彼は主から受けた福音、すなわちイエスの十字架による救いを旧約の真理に照らし合わせて熟考していたのです。パウロの福音理解は、体験と理性と歴史と霊性とが生きているものです。私たちもそのようにバランスの良い信仰生活をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

